



UCL

講義 3

前提の引き金問題と投射問題

須藤 靖直

University College London
y.sudo@ucl.ac.uk

2014年7月19日



広島大学

予定

- 講義 1 : 真理条件的意味論入門
 - 文の意味と真理条件
 - 合成性
 - 名詞句の意味と指示
- 講義 2 : 前提と第三の真理値
- **講義 3 : 前提の引き金問題と投射問題**

前回のおさらい

- 「フランスの現在の国王はハゲている」
存在前提：フランスには現在国王がいる
- この存在前提は、**疑問文・否定文・仮定文**などで
投射(project)する（演算子の作用域に入らず残る）



今回

- 今回は、今日の理論にとっての問題を簡単に紹介します
- 前提の**引き金問題**
- 前提の**投射問題**

前提の引き金問題

前提はどこから来るか

- **観察**：「フランスの現在の国王」という句を項に含む文は全て同じ**存在前提**を持つ
 - 「フランスの現在の国王はハゲている（の？）」
 - 「太郎は昨日、フランスの現在の国王に会った（の？）」
 - 「今日、フランスの現在の国王の会見が開かれる（の？）」
- ➡ **存在前提**：フランスには現在国王がいる
- つまりこの存在前提は、「フランスの現在の国王」という定名詞句の**意味の一部**である

指示表現の前提

- さらに、「フランスの現在の国王」に限らず、

指示表現(referring expression)を（項として）含む文
は一般的に存在前提を持っている


- 「今講義をしている言語学者」

➡ **存在前提**：今講義している言語学者がいる

- 「僕の糖尿病の叔父」

➡ **存在前提**：僕には糖尿病の叔父がいる

指示表現の意味

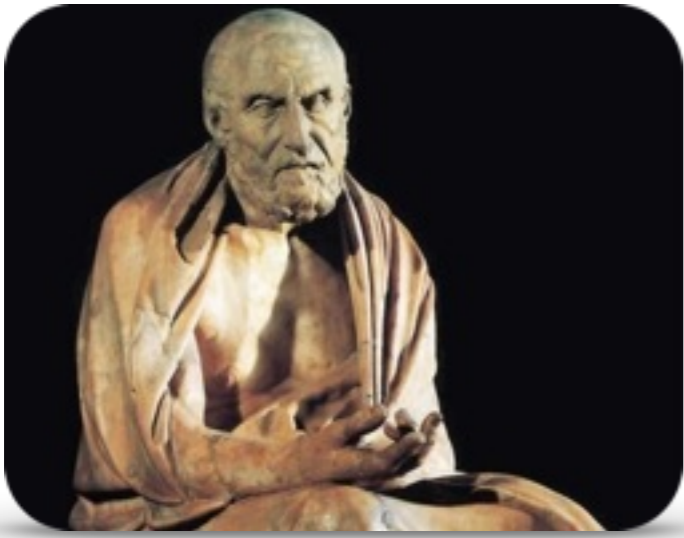
- つまり、指示表現の意味は（少なくとも）以下の2つの要素を持つ
 1. 指示されている個物
 2. その個物に関する存在前提
- 例：
 1. 【今講義をしている言語学者】 = 
 2. 存在前提： 今講義をしている言語学者がいる

前提の引き金

- 文の持つ前提の多くは、その文の構成要素（例えば指示表現）によってもたらされる
- このように前提をもたらす句を前提の**引き金(trigger)**と呼ぶ
- 指示表現以外にも前提の引き金は色々ある



『角の矛盾』



エウブリデスの『角の矛盾』

失くしていないものは持っているはずである。あなたは角をなくしたことがない。従ってあなたは角を持っている。

- この矛盾は「失くす」という句の前提を無視していることに起因する



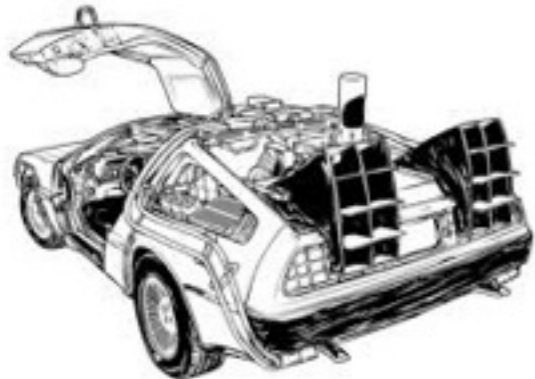
「失くす」の矛盾

- 一般的に「XがYを失くした」という文は**XがYを**
持っていたという前提を持つ
 - 「太郎が白いiPhoneを失くした」
 - 「太郎が白いiPhoneを失くしたの？」
 - ➡ 太郎は白いiPhoneを持っていた

状態変化述語の前提

一般的に、「失くす」のような**状態変化を表す述語**は、**以前その状態変化述語がなりたっていない状況があった**という前提を持つ

- 「XがYを失くした (の?) 」 ➡ XはYを持っていた
- 「XがYをやめた (の?) 」 ➡ XはYをやっていた
- 「XがYに帰った (の?) 」 ➡ Xは元々Yにいて今はいない



代名詞の前提

- 代名詞の中には、（存在前提の他に）その指示する個物の性質に関する前提を持つものがある
 - 「彼女」 ➡ 指示対象は女性
 - 「これ」 ➡ 指示対象は無性(inanimate)
 - 「あの方」 ➡ 指示対象は話者より目上
 - 「あいつ」 ➡ 指示対象は目上でない



強量化詞の前提

全称量化詞(universal quantifier)や比例量化詞(proportional quantifier)などの、いわゆる**強量化詞(strong quantifier)**と呼ばれる量化詞は存在前提を持つ

- ・ 「広島すべてのもんじゃ焼き屋がまずい (の?) 」
- ・ 「広島のほとんどのもんじゃ焼き屋がまずい (の?) 」

➡ **存在前提**：広島にもんじゃ焼き屋が (複数個) ある



取り立て詞

「も」、「しか」、「こそ」などの**取り立て詞**(focus particle)と呼ばれるものは前提を持つ

- 「数詞＋も」はその数が大きいという前提を持つ
 - 「4時間も寝た(の?)」 ➡ 4時間は寝るには長い
- 「数詞＋しか」はその数が小さいという前提を持つ
 - 「10時間しか寝てない(の?)」
➡ 10時間は寝るには短い



他にも

- いわゆる「factive」と言われる語
 - 知識に関する態度動詞：「～を知っている」
 - 感情に関する態度動詞：「～を後悔している」
 - 理由に関するもの：「～なので」
- 極端に意味の狭い語
 - 「Xが縦列駐車をした（の？）」
 - 「Xがハットトリックをきめた（の？）」
- 「同じ」・「違う」
などなど



まとめ：引き金問題

- 前提を引き起こす語や句がある（**前提の引き金**）

前提の引き金問題

どのような語や句が、どのような前提を持つのか？

- 理論言語学者は近年になってやっと引き金問題を論じ始めたが、標準的な理論は未だに存在しない
- 引き金問題は第一言語習得の理論にも重要である

前提の投射問題

前提の投射問題

- 前提の引き金が前提を引き起こすが、その前提はどのように文全体の意味一部になるのか？
- また、前提はなぜ疑問文・否定文・仮定文などで投射するのか？

前提の投射問題

前提を持つ句がより複雑な句の一部となっている場合、その複雑な句の前提は何であるか？

(投射問題は前提に関する**合成性の問題**である)

間違った仮説：累積仮説

- 投射問題は1970年代から理論的考察がされるようになった
- 70年代に提唱された理論の一つに、**累積仮説**(cumulative hypothesis)と呼ばれる考え方がある

累積仮説の考え方：**pという内容の前提を引き起こす引き金を持つ文は、文全体としてpを前提とする**

- この仮説は間違っているのだが、その反例が前提投射の理論の発展に大きく貢献した

例：太郎の彼女

- 「太郎の彼女」という指示名詞句を考える
(本当は「太郎」自体も存在前提を持つが、省略する)
- 「太郎の彼女」
 - ➡ **存在前提**：太郎には彼女がいる
- 「太郎の彼女は外人だ」 (単純な平叙文)
 - ➡ **存在前提**：太郎には彼女がいる

累積する例

- 「太郎の彼女は外人なの？」 (疑問文)
➡ 存在前提：太郎には彼女がいる
- 「太郎の彼女は外人だろう」 (「だろう」)
➡ 存在前提：太郎には彼女がいる
- 「太郎は最近までアメリカにいたんだから、太郎の彼女は外人だろう」
➡ 存在前提：太郎には彼女がいる

累積しない例：仮定文

- 「太郎と次郎に彼女がいるとすると、太郎の彼女は外人だろう」
 - ✗ 存在前提：太郎には彼女がいる
- この仮定文全体は、存在前提を持たないので、累積仮説に対する反例である
- この他にも累積仮説の反例は知られている

他の累積しない例

- 「太郎の彼女は外人である必要がある」
 - ✗ 存在前提：太郎には彼女がいる
- 「太郎と次郎に最近彼女ができたんだけど、太郎の彼女は外人だ」
 - ✗ 存在前提：太郎には彼女がいる
- 「太郎には彼女がいないか、太郎の彼女が外人かのどちらかだ」
 - ✗ 存在前提：太郎には彼女がいる

投射の理論の発展

- 累積仮説は自然言語の理論としては間違っている
- 投射理論は、**どのような環境で前提が累積し、どのような環境で累積しないのか**を捉える必要がある
- 1970から90年代初頭まで、投射現象の観察と形式的記述が主に行われたが、近年になって「なぜ」を説明する、**説明的理論**が模索されるようになった
- 最後に、投射問題の難しさを示す例を2つ紹介する

Philippe Schlenker
(CNRS, NYU)



仮定文の問題

- さきほど前提が投射しない仮定文の例を挙げたが、「前提は仮定文で投射しない」というわけではない
 - 「太郎と次郎に彼女がいるとすると、太郎の彼女は外人だろう」
 - ✗ 存在前提：太郎には彼女がいる
 - 「太郎が海外に住んでいたとすると、太郎の彼女は外人だろう」
 - ➡ 存在前提：太郎には彼女がいる
- つまり仮定文の内容により、どのように投射するのかが決まる

態度文の問題

- 態度文では、2つの前提が得られる
 - 「花子は、太郎の彼女が外人だと思っている」
 - ➡ 存在前提：太郎には彼女がいる
 - ➡ 花子は太郎には彼女がいることを知っている
- また前者は前提ではないのかもしれない
- 「花子は、太郎に彼女がいると思っているらしい。しかも、太郎の彼女が外人だと思っている」

まとめ：投射問題

前提の投射問題

前提を持つ句がより複雑な句の一部となっている場合、その複雑な句の前提は何であるか？

- 昨日の最後に簡単に紹介したように、さまざまな前提の理論とそれにとった投射理論が存在する
- 午後の発表では、投射問題の一部である、**量化文** (quantified sentence)の前提について話します